

コード No. 11104

**Anti-Human
p16^{INK4a} (1H4) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

はじめに : p16^{INK4a} はサイクリン依存性キナーゼ(CDK)インヒビターのひとつであり、CDK4 あるいは CDK6 に結合し、そのキナーゼ活性を阻害します。MTS1 あるいは INK4a とも呼ばれ、他の INK4 ファミリーには p15^{INK4b} (MTS2)、p18^{INK4c} および p19^{INK4d} があります。p16^{INK4a} はがん抑制遺伝子であり、多くの腫瘍組織やがん細胞株で突然変異あるいは高メチル化による不活性化がみられます。しかしながら、子宮頸癌を含むいくつかの腫瘍では p16^{INK4a} の過剰発現が報告されています。子宮頸癌の発症にはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が深く関与しています。免疫組織化学的手法による p16^{INK4a} の過剰発現の検討は、現行の高危険群 HPV 感染の検出よりも子宮頸部異形成の診断に有用であることが示されています。

免疫抗原 : ヒト p16 のリコンビナントタンパク

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 1H4 サブクラス : IgG₁

精製方法 : Protein A 精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 5 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片 : マイクロウェーブ処理必要)
: ウェスタン・ブロッティング 1 µg/mL にて使用可能
: 免疫沈降法 2 µg/test にて使用可能

文献 : 1. Sano, T., Oyama, T., Kashiwabara, K., Fukuda, T., Nakajima, T. Expression status of p16 protein is associated with human papillomavirus oncogenic potential in cervical and genital lesions. *Am. J. Pathol.* 153:1741-1748 1998
2. Sano, T., Oyama, T., Kashiwabara, K., Fukuda, T., Nakajima, T. Immunohistochemical overexpression of p16 protein associated with intact retinoblastoma protein expression in cervical cancer and cervical intraepithelial neoplasia. *Pathol. Int.* 48:580-585 1998
3. Yoshida, T., Sano, T., Kanuma, T., Fukuda, T., Nakajima, T. Usefulness of Liquid-based cytology specimens for the immunocytochemical study of p16 expression and human papillomavirus testing. *Cancer Cytopathol.* 102:100-108 2004.

コード No. 11104

**Anti-Human
p16^{INK4a} (1H4) Mouse IgG MoAb**

容量 : 10 µg

はじめに : p16^{INK4a} はサイクリン依存性キナーゼ(CDK)インヒビターのひとつであり、CDK4 あるいは CDK6 に結合し、そのキナーゼ活性を阻害します。MTS1 あるいは INK4a とも呼ばれ、他の INK4 ファミリーには p15^{INK4b} (MTS2)、p18^{INK4c} および p19^{INK4d} があります。p16^{INK4a} はがん抑制遺伝子であり、多くの腫瘍組織やがん細胞株で突然変異あるいは高メチル化による不活性化がみられます。しかしながら、子宮頸癌を含むいくつかの腫瘍では p16^{INK4a} の過剰発現が報告されています。子宮頸癌の発症にはヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が深く関与しています。免疫組織化学的手法による p16^{INK4a} の過剰発現の検討は、現行の高危険群 HPV 感染の検出よりも子宮頸部異形成の診断に有用であることが示されています。

免疫抗原 : ヒト p16 のリコンビナントタンパク

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)クローン名 : 1H4 サブクラス : IgG₁

精製方法 : Protein A 精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 0.1 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 0.1 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 5 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片 : マイクロウェーブ処理必要)
: ウェスタン・ブロッティング 1 µg/mL にて使用可能
: 免疫沈降法 2 µg/test にて使用可能

文献 : 1. Sano, T., Oyama, T., Kashiwabara, K., Fukuda, T., Nakajima, T. Expression status of p16 protein is associated with human papillomavirus oncogenic potential in cervical and genital lesions. *Am. J. Pathol.* 153:1741-1748 1998
2. Sano, T., Oyama, T., Kashiwabara, K., Fukuda, T., Nakajima, T. Immunohistochemical overexpression of p16 protein associated with intact retinoblastoma protein expression in cervical cancer and cervical intraepithelial neoplasia. *Pathol. Int.* 48:580-585 1998
3. Yoshida, T., Sano, T., Kanuma, T., Fukuda, T., Nakajima, T. Usefulness of Liquid-based cytology specimens for the immunocytochemical study of p16 expression and human papillomavirus testing. *Cancer Cytopathol.* 102:100-108 2004.